

特集・石巻復興ボランティア活動

専大生37人

笑顔で

交歓

「石巻の人々の笑顔がうれしい」「ぜひまた来年も訪ねたい」。東日本大震災から3年と5カ月が経過した8月。専大生37人が6日から9日まで石巻市を訪問、石巻専修大学を拠点に、復興支援ボランティア活動(とどけよう)専修大学の力を石巻へ!に励んだ。防災用品をつくり、ゲームで小学生80人と楽しむ「専大まつり」を開催、キャンパス周辺と南境第4仮設住宅などで清掃活動も行った。仮設住宅では専大生と小学生が1年ぶりの再会を喜び合う場面もあった。

この活動は震災後毎年、現地のニーズを探り、実施している。昨年から始めた清掃活動や「専大まつり」は、地域との「絆」を深めている。期間中、石巻専大で放送されるワンセグ放送に代表学生3人が出演、ボランティア活動に参加する気持ちを熱く語った。また、NHKのニュース番組で、「専大まつり」の様子が紹介されるなど、現地でも話題になった。

9月18日には神田キャンパスで活動報告会が阿藤正道学生部長、国里愛彦同部次長ら同行した教職員が参加して開かれ、充実した活動の様子が報告された。ボランティアに参加した2学生を紹介する。

防災用品づくり



参加した学生たち。左端が阿藤学生部長(石巻市門脇町で)



仮設住宅 清掃も



ネットワーク情報学部・藤原プロジェクト

東京ゲームショウ2014に出展

インターネット閲覧中のイライラを題材にゲーム開発。ネットワーク情報学部・藤原正仁プロジェクト(山根聡太郎リーダーら3年次生11人)が、世界的なゲーム見本市「東京ゲームショウ2014(コンピュータエンターテインメント協会主催、千葉市・幕張メッセで9月18〜21日開催)の一般公開日に出展し、開発したゲームが多くの来場者に試遊された。



▲ 広告(赤枠)をかわす

独立系ゲーム開発者が対象の「インディーゲームコーナー」に応募。国内外310件の応募の中から採択され、一般公開日の9月20日と21日、17カ国・地域の68団体のブースが肩を並べる一角に「白絵具」の名称で、「アドアド advertisement(Adventure! App Store)無料配信中)を出展した。

「アドアド」は、障害物の広告を避けながら脱出を目指す、縦スクロールのアクションゲーム。「実物と似すぎず、想像力をかきたてるように仕上げた」(工藤隼平)。

「アドアド」はユーザーに「楽しい・新しい・面白」と感じてもらえるようなゲームの開発・研究を推進。学内外の学びの場に主体的に参加し、調査を通じて得た情報技術や知識をもとに試行錯誤を重ね、PDC Aサイクルを採用している。「アドアド」はすでにいく予定だ。

「と」と言う通り、画面の構成やデザインがどこかで見たような雰囲気だ。また、音楽も独創的で「Webブラウザという題材と、キャラクターのコミカルさ、両方のイメージに合うようなサウンドを目指した」(清野雄貴さん)。「創意工夫を感じ、非常に新しいアドベンチャーゲームだ」と好評で、中国のゲームと好評で、中国のゲーム紹介ブログで取り上げられた。

同プロジェクトでは、「白絵具」という名に「新しく真っ白く塗り替えるような面白いゲームの開発を目指す」という意味を込めました。(山根さん)。現在、2作目のゲーム開発に取り組み中であり、今後も積極的に学内外で発表を行っている。



▶ 東京ゲームショウに参加したメンバー。後方が出展ブース

ネット情報 学部説明会

ネットワーク情報学部の「AO入試・学部説明会」が7月26日、生田キャンパスで開かれた。カリキュラムの紹介、学びの特徴、学生生活など入学に向けての準備につながる説明や、AO入試を考えている受験生に役立つ具体的な情報などが提供された。ほかに、プログラミングやメディアコンテンツに関する模擬授業、個別相談会も実施された。



▲ にぎわう「コウサ展 in SUMMER」

また、同学部3年次生のグループ演習科目「プロジェクト」の中間発表会(発表会は12月)、同学生が主催する製作物の展示会「コウサ展 in SUMMER」も催された。会場の10号館にはさまざまなブースが設けられ、体験コーナーも盛況。多くの高校生やご父母・保護者でにぎわった。